

令和6年度 学校評価書

学校名 岐阜市立早田小学校

校長名 杉本公彦

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たす中で、家庭や地域の方々との地域を思う気持ち、子ども達を地域の宝として思う気持ちに触れることを通して、「ぎふMIRAI's」の取組の充実を図る。	A	・各学年の活動テーマを設定し、子ども達が地域をより深く知ることができるよう、各学年で活動を工夫することができた。 ・「早田ふれあいデー」の活動をリニューアルし、地域の方々、ふるさと早田を思う気持ちに直接ふれることができる活動を支援推進委員会が主体となり位置づけることができた。 ・英語を含めた主体的な「学ぶ力」の育成については、授業改善を継続して推進していく。	・地域住民として子ども達との楽しい関わりが持てることをとても幸せに感じている。人権教育の側面から歴史の中の生活人権に加えて個々の様々な人権に目を向けながら子ども達との関わりの中で地域住民としても考えていきたい。 ・学力状況調査の分析等から課題を洗い出し、子供たちのためになる人権教育や英語にも改善の工夫をしていただいている。	「ぎふMIRAI's」の取組として、早田の地域を学ぶことにとどまらず、地域の人々のふるさとを思う心に触れる学習をさらに充実させていく。 ・人権教育について岐阜市の12の人権課題をもとに特別活動や社会科、道徳等で具体的な指導内容を明確にして指導にあたる。 ・英語の授業では、職員研修を通じて付けたい力につながる活動の工夫を推進していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	学校運営協議会と支援委員会が中心となって地域とともに活動する行事を創り出すことを通して、コミュニティ・スクールの機能を具体的に機能することに加え、その充実を図る。	B	・コロナ禍前までの「早田ふれあいデー（地域の方との交流会）」が、時を経て再開が困難になったことに伴い、新たな「早田ふれあいデー」の在り方を模索し、実施することができた。 ・今後、学校主体の企画・運営・実施から、支援推進委員会が主体となり、他の地域行事（5校交流会）など、町づくり協議会の事業との連携を踏まえて、地域主体で運営可能な行事にシフトしていく。	・早田ふれあいデーや図書館プロジェクトなど、過去の行事の踏襲ではなく、時代や実態に合った内容を積極的に取り入れられ、子ども達だけでなく、保護者・地域住民にとっても魅力的な活動が展開されたことを高く評価したい。 ・学校が家庭や地域をうまく巻き込んで一体感のある活動を展開していただけたのが大変ありがたかった。	・中学校区として人権教育に取り組むことを重点とし、岐阜市の12の人権課題を踏まえて9年間を通した人権教育の在り方を明確にし、具体的な授業実践を通して研究を深める。 ・学校支援推進委員会が中心となって、「早田ふれあいデー」の企画や、公民館行事、地域行事への学校としての参加について、積極的に推進する。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	職員一人一人が日々、笑顔とやる気に満ちた表情で子ども達と関わるができるよう、互いに尊重し合うことができる職員集団の醸成と、家庭や地域との信頼関係の中で、働きがいのあふれる学校づくりに取り組む。	A	・温かい職員間の関係性の中で、職員一人一人が自分のよさを発揮しながら、チームで児童への指導にあたるができる職員集団になっている。 ・スマート連絡帳だけでなく、必要に応じて家庭訪問や電話連絡等により、心の通い合う関係を大切にすることができるよう、職員が努力してきた。	・学校の職員がいつも明るく笑顔で、保護者や地域住民などの来校者に挨拶をしてくださり、とても話しやすい職員集団となっていることがすばらしい。 ・児童の悩みや相談にも丁寧に対応していただいているとともに、保護者も気軽に相談させていただけている。	・学校教育目標「皆の幸せ 進んで行動」の「皆の幸せ」の皆を「児童・学校職員・保護者・地域の方」と具体的に「幸せ」の具体を明らかにしながら、全職員が一丸となって学校運営にあたることをさらに進めていく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	「命を守る訓練」について、最新の情報や地域の実情を踏まえて見直しを図るとともに、児童、職員、家庭、学校の「幸せ」のために、かけがえのない一人一人がその日一日を精一杯輝かせることができるよう（命の尊厳）、いじめや生徒指導対応について、職員間の連携を図りながら適切に対応できるようにする。	A	・命を守る訓練を、一般的な訓練から、「早田小学校ならではの訓練」として、担当が中心となって様々な試みにチャレンジすることができた。 ・交通安全について、地域からの情報があれば直ぐに確認し、児童への指導に繋がった。 ・いじめ事案やいじめに繋がる可能性が感じられるわずかな事案にも、一つ一つ丁寧に向き合い、いじめ対策監や生徒指導担当が中心となって、即日対応を徹底した。	・防災教育の専門家による全校児童ならびに職員への研修を実施するなど、最先端の防災教育を学校教育に取り入れられていることを高く評価したい。 ・「引き渡し訓練」など、実際の災害時を想定したシミュレーションが、本当に引き渡しが必要になった時に活かされた。実践的な取組の重要性をあらためて感じた。	・一般的な防災の視点だけでなく、早田地域や早田小学校の立地状況、地域の実態などを踏まえ、中学校区3校が連携しながら災害時の具体的な対応を実践訓練を通じて取り組んでいく。 ・中学校区で校長・教頭・教務主任・生徒指導等がそれぞれに連携を密にしながら、より確実な対応ができるようにしていく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	児童の心身の状態の把握や学習効果の向上に向けたタブレットの積極的な活用とともに、情報管理について徹底を図る。また、学校施設の老朽化に伴い、常に児童の安全・安心な環境の視点から日々の修繕や市教委への依頼により最適な環境の維持と、効果的な活用にも努める。	B	・タブレット端末を活用した授業や、ここタンを活用した児童理解等、職員は情報機器を活用しながら、授業改善や児童理解に努めることができています。 ・タブレット端末が破損する児童が増え始め、安全で丁寧な使い方など、今後さらに指導するとともに、情報管理についての指導の徹底も継続していく。	・学校の物的環境としては老朽化も目立ち、様々な問題点が現れ始めてきていると思うが、校務員が中心となって学習生活環境の整備に積極的に取り組まれていることに感謝する。 ・学校単位で対応が難しいような大きな環境整備（例えばアスファルトの吹き替え、校舎の大規模な建替等）について岐阜市が見通しをもって取り組んでほしい。	・学校でできる限りの物的環境の整備を引き続き行っていく。 ・学校単位で対応が難しいものについて、今後も岐阜市に具体的な対応の見通しを含め、継続して依頼を続けていく。